

グラントワ

グラントワは、島根県西部の芸術文化の拠点として、美術館と劇場の機能を持つ全国有数の複合施設で、地域振興を図る拠点としての役割を担っています。建物は、石州瓦で屋根と壁を覆い、柔らかな色合いが町並みに映えて市街地の景観の核になっています。

昨年10月には、優れた公共施設に贈られる公共建築賞・特別賞に京都迎賓館と並び選ばれました。地場産業の活用がうまくいった施設として高い評価を得ました。グラントワには石州の屋根瓦、壁瓦合わせて28万枚以上が使われ、わざと異なる窯元

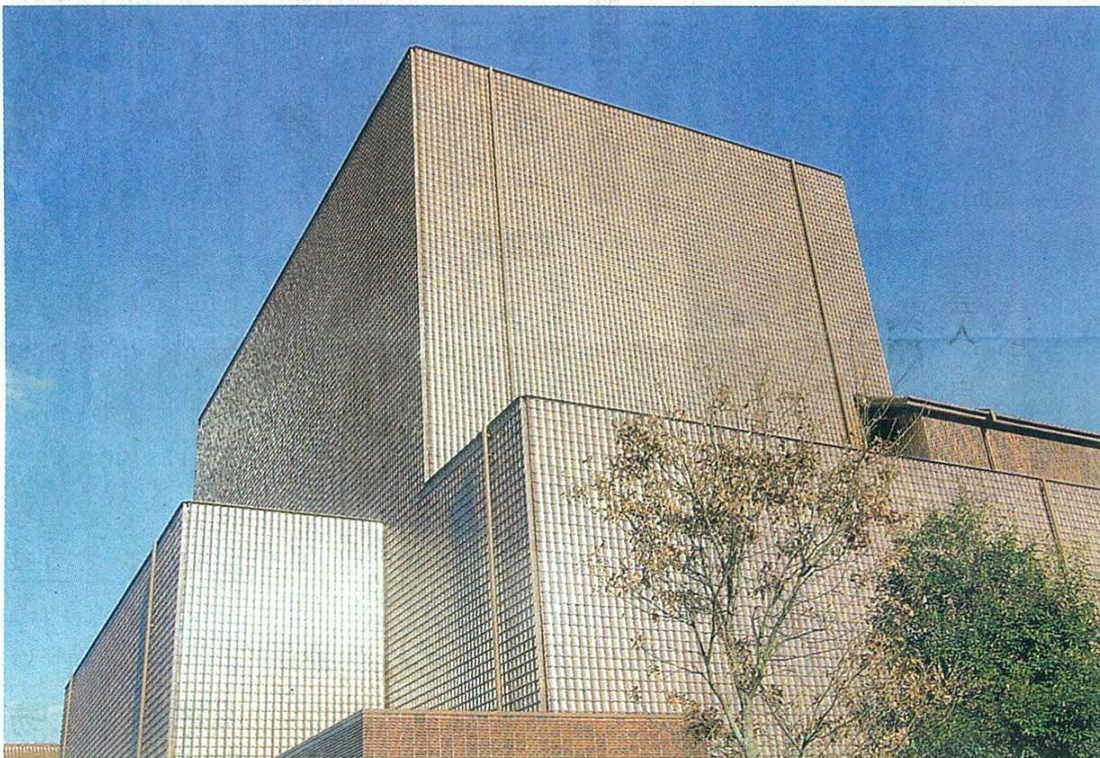
の瓦を使うことで、独特の味わいを醸し出しています。季節や時間の移り変わり、日の光の強弱などによって、さまざまな味わいを醸し出します。

企画展だけでなく、石州瓦にこだわった建築としてのグラントワの美しさも見て来ていただきたいですね。

赤瓦と緑あふれる風景は、六日市で生まれた私の原風景です。特に昔の津和野の町並みは心に残り、津和野に入るときに眼下に広がる赤瓦の町並みが、「ようこそ」と迎えてくれているように感じられました。

私はよく島根の恵まれた文化力と自然を例えて「島根は日本のニース(フランス)だ。県西部はナポリのようだ」と人に話します。県西部のカラッとした気候、自然にあふれた風景の中にたたく赤瓦の町並みは、ヨーロッパの風景にも通ずると考えるからです。

こうした石見独自の景観は、観光資源にもなり得ます。心とまです景観が、これから注目されるのではないのでしょうか。地場産業をどう生かすかが石見活性化の一つの道だと思えますね。



日の光に照らされ、さざ波のような光が壁を走るグラントワ—益田市有明町

独特の味わい醸し出す 公共施設でも高い評価



島根県芸術文化センター・グラントワ館長、彫刻家

澄川 喜一さん